

## Case Study 2

## ケータイ・スマホ ハンドブック 高校生自身で ケータイを 見つめ直した本



スマホが  
加わった  
最新版

### スマホを新たに 取り上げ 初出版化した

学習の深まりは生徒たちの興味・関心の深まりとなる。柔軟な発想で自ら見つけ出した新しいテーマが毎年追加される。2014年版のテーマは「ネット選挙」。



ケータイハンドブック  
2009～2013年版

### 文章もイラストも すべて手作り 歴代のハンドブック

生徒の意思を尊重した学びは教室にとどまらず、愛知県警サイバー犯罪対策課への訪問学習など、学校を飛び出し、フィールドを広げている。

イに加えスマホについても調べた。最新の第6版にはネット選挙がテーマとして盛り込まれる。

生徒の皆さんに、ケータイと人との関わりについて考えていることを聞いてみた。

「趣味の仲間とはネットの方が深くつながれて楽しい。それでも実際に会う友達存在は違います」というのは2年生の中島さん。1年生の遠松さんは、メールのやりとりで友人とこじれてしまった経験も踏まえ、「会って話をすることが大事だと思いました」という。1年生のときから制作に関わっている3年生の田添さんは、「向かい合って話すことの大切さを知ってほしい」。

印象深かったのは、向かい合うことの大切さを話す彼女たちの言葉に、模索しながら考え、出した答えだからこそその力強さを感じら

### これからの コミュニケーション

金城学院の取り組みの質の高さに誰よりも驚いているというのが、提案者の今津先生だ。生徒たちがケータイ依存について調べたいと言いつつ、ごく気軽にケ

れたことである。

成長していく生徒たちの姿に、深谷昌一校長も頼もしさを感じているという。「取り組みを始めて6年、初期は熱を帯びた議論はありましたが、どこか排他的なところがありませんでした。しかし年を重ねていくうちに、生徒のグループが成熟していくのを感じました。今は、『こういうのもありだよ』と多様な考えを受け入れながら議論を深めるグループになってい

ータイを使いこなしているように見える高校生たちにも「このままでもいいのだろうか」という不安や疑問があることを感じ、若い世代への見方が一面的だったことを反省したという。

「今はメディアコミュニケーションに振り回されすぎていると思います。2000年以上続いているヒューマンコミュニケーションに対し、メディアコミュニケーションはわずか30年くらいの、実験段階のようなもの。年長者は臆さず自分たちの知っているコミュニケーションを若い世代に教えればいい。そして同時に、メディアの新しいことは、若い世代から大人が教えてもらうのです」

若い世代から年長者へ。新しい方向のつながりを与えることで、コミュニケーションは深度を増していくかもしれない。

大人から若い世代、若い世代から大人へ。双方向からつくる。これからのコミュニケーション。



愛知東邦大学／今津孝次郎先生



担当教諭／宮之原弘先生



校長／深谷昌一先生

## つながるのは ケータイと ではなく、人

高校生の目線でケータイ・スマホについて説明するだけでなく、コミュニケーションのあり方に深く切り込んだハンドブック。その土台となる第1版が金城学院高等学校で作成されたきっかけは、2008年に中学校で出した「反いじめ憲章（現・白百合の誓い）」の取り組みに遡る。高い問題意識をもって活動してきた生徒たちの思いを受け継ぐ方法はないのか。

高校の新学期は協議し、生徒支援を担当する宮之原弘先生が、「反ネットいじめ研究会」の立ち上げを呼びかけた。生徒たちの関心は

予想以上に高く、60人もの生徒が手を挙げた。最初の学習会で名古屋大学（当時）の今津孝次郎先生に「ケータイ問題」について講演を依頼し、その中で「ケータイをテーマに、1冊にまとめてみては？」との提案を受けて始まった。「ケータイ依存」について調べたいと言いつつ、生徒たちである。参加は自由、すべて生徒主体で学習が進められるなか、ハンドブック第1版が完成した。

宮之原先生は、学習を通して生徒たちが自身を振り返り、多くの「気づき」を得たと語る。「依存」が悪いのではなく、依存の対象がケータイであることに問題があると気づいた生徒たちは、次に依存の「原因」について関心を向ける

### 学びを通して グループは 成熟する

これまで5版を重ねてきたハンドブックだが、毎年生徒たちが気になるテーマを加えている。例えば海外でのケータイ事情、東日本大震災の折には災害のなかでのケータイの意義。第5版ではケータイ

ようになりました」

人は誰かに依存しないと生きていけない。その対象は本来「人」。周りにいる親、よき大人とつながることが大切——その気づきを同級生や後輩に伝えるために、毎年4月には新しいハンドブックを作成・配布し、生徒による新入生ガイダンスを行っている。

高校生たち自身の手でまとめ、出版された『中高生のためのケータイ・スマホハンドブック』学事出版。

ただ「ケータイはダメ」ではなく、多角的な視線でまとめられた1冊である。本書を編集した名古屋金城学院高等学校の生徒先生のお話をうかがった。

取材執筆／加藤しのぶ 撮影／堀出恒夫

未来のために、  
私たちに何が  
できるか

Case

2

## ケータイ・スマホから学ぶ人とのつながり

### 『中高生のためのケータイ・スマホハンドブック』制作を通して



名古屋・金城学院高等学校  
1年生／遠松香里さん(上)  
2年生／中島日向子さん(中央)  
3年生／田添茜名さん(下)